



なごや「聖歌」だより7月号2012

伝統って何？

* 正教礼拝の伝統を考える



今月の予定

聖歌練習 半田 7月11日(水)12時ごろから

名古屋7月8日代式後。毎聖体礼儀後のミニ練習も行います。

名古屋指揮当番

1日マリア松島 22日ピーマン松島 29日エレナ広石

2. 礼拝——リトウルギア、共働の祈り 2

祈りのユニットのひとつひとつは会衆の唱える「アミン」で締めくくられます。司祭の唱える祈りは教会という共同体全体のものであるから、会衆は「アミン(そうなりますように)」と合意を表します。連祷の終わり、ヘルビムの歌の歌われる大聖入の記憶、とりわけ祭品への聖神降臨を願うエピクレシスの祈りには、3回のアミンが輔祭(または会衆)によって唱えられます。

「平和の憐れみ、讃揚の祭を*」で始まるアナフォラ(聖変化)の導入部分は古代教会以来の司祭と会衆(聖歌隊)の応答の形で、3世紀の記録ヒポリタスの『使徒伝承』にも記録され、ローマ典礼にも共通です。

*「親しみの捧げもの」という古い翻訳で歌われることもある。ギリシア語原文は Ἐλεον εἰρήνης, θυσίαν αἰνέσεως で、「平和と憐れみ」

聖体礼儀	ヒポリタスの使徒伝承
<p>司祭：願くは我が主イイスス・ハリストスのめぐみ、神・父の慈しみ、聖神の親しみは、爾衆人とともに在らんことを、 (IIコリント13:13)</p> <p>会衆：爾の神^oとも 司祭：心上に向ふべし。 会衆：主に向へり。 司祭：主に感謝すべし。 会衆：(父と子と聖神、一体にして分かれざる三者に伏し拜むは)** 当然にして義なり。</p>	<p>主はあなたがたとともに。</p> <p>一同は答える。 「また、あなたの霊とともに」 「心を上に」。 「主に向けています」 「主に感謝を捧げましょう」 「それは、よいこと、正しいことです」</p>

**「父と子と聖神、一体にして分かれざる三者に伏し拜むは」はスラブ系教会の付加。ギリシア系教会では「当然にして義なり Ἀξιον και δίκαιον。」のみ。

ですから聖体礼儀の祈りの主語は一部の例外***を除いて、常に「我等」という複数形です。正教会の理解では、礼拝はひとりひとりの肢体が参加し、思い合い、赦しあい、与えられた役割を担い、口を一つに、心の一つにして、文字通り一つの体となって「私たち」として祈るものです。祈りの代理人としての聖職者とそれを見物する信徒の二層構造でも、各人が勝手に祈る「私」という個人の寄せ集めでもありません。

礼拝は役割分担して行うのが前提なので、祈禱書も役割と目的に従って分割収録されています。司祭輔祭の用いる『奉事経』、『福音経』、誦経者の用いる『使徒経』、誦経者や聖歌者の用いる『時課経』、聖詠(詩編)が収められた『聖詠経』、日によって変わる歌の歌詞(テキスト)が収められた『八調経』『三歌斎経』『五旬経』『月課経(含む祭日経)』などに分かれています。それぞれが分担

する役割の本を持って、お互いに相手の動きやことばを意識しながらチームワークで祈りを進めていきます。ですから、やむを得ず一人で祈禱を行うときは何冊もの本を見ながら何役も果たすことになり、てんてこまいです。

礼拝に関わる要素、建物、祈禱書、役割、聖歌などすべてが複数で行うのを前提に作られています。誰かが代表して代わりに全部やってくれば楽なのに、祈禱書は一冊にまとまっていれば便利なのに、と人間の目から見ると「不便」だらけなのですが、そこに「共働する」集まりを願う神の隠れた意図を見て、あえて合理化せず不便なままにしてきたのは教会の知恵かもしれません。

*** 単数で祈るのは「信経」と「領聖祝文」のみ。「信経はもともと洗礼の時の信仰告白から借用された。ニケア公会議の議決文では「我等」と複数である。「領聖祝文」は領聖予備規程の一部で、聖体礼儀の準備の祈りである。

知って祈ろう—奉神礼は面白い

記憶—とりなしの祈り

(祝文) 願くはこれは^う領くる者のために、^{たましい}霊の警醒となり、諸罪の赦しとなり、爾が聖神の体合となり(あなたの聖神にある交わりと一致となり)、天国を得ることとなり、爾における勇敢となり、審案あるいは定罪とならざらんことを、

また、この^{たましい}霊智なる奉事を、信を以て寝りし元祖・列祖・太祖・預言者・使徒・伝道者・福音者・致命者・表信者・節制者、及び凡そ信を以て終りし義なる^{たましい}霊のために爾に献ず、

ハリストスは使徒たちに機密の晩餐を授け「私の記念としてこのように行いなさい」と命じました。正教会で記憶、記念と言うときは、ただ単に「思い出として行いなさい」ではなく、愛による想起によって時と所を超えて現実のものとするというダイナミックな意味があります。

預言者、聖人、すべての人(衆人、万民)が記憶されます。ことに生神女マリアを讚美して歌います。



ことに至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光栄の女^{しょうしんじょ}幸・生神女・永貞童女マリヤのため、
常に^{つね}福^{さいわい}にして全く^{まったく}玷^{きず}なき生神女、我が神の母なる^{しょうしんじょ}爾^わを^{かみ}讚美するは^は真^{まこと}にあたり、

ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え、貞操を壊らずして神・言^{やぶ}を生みし実の^{かみ}言^{ことば}を^{まこと}生みし実の
生神女たる^{しょうしんじょ}爾^{なんじ}を^ほ崇め讚む、

続けて、授洗イオアン、当日の聖人、全教会と全世界を記憶し、さらにその教会を管轄する主教を記憶し「万民をも」とすべての人を記憶します。さらに、その都市と国、旅行者、病気の人、教会を支えるもの、貧しい人、などを記憶してくださるように神に願います。

ハリストスのとりなしによって、世界は救われ、神との交わりを取り戻すことができました。預言者も、使徒たちも、聖人たちも、生神女も、そして記憶されたすべてが、今ここに集い、一つの教会となり、「声と心をつつにして」神を讚美し、領聖に向かいます。

参考文献
『奉神礼』『教義』トマス・ホブコ著、西日本主教教区発行(教義は未発行)
『ユーカリスト』A.シュメーマン著、新教出版社

輔祭誕生！

名古屋教会にも念願の輔祭が誕生しました。

グレゴリイ伊藤輔祭、おめでとうございます。

実務的な話です。今までは司祭の声だけを基準に音を取ってききましたが、これからは輔祭と司祭の両方に調和する必要があります。慣れるまでは、音を取り直すことも多いと思いますが、指揮者の指示に従ってください。みんなが思いこみで適当に出ると、收拾がつかなくなってしまいます。グレゴリイ輔祭は下のC(へ長調のソ)で、松島神父はF(ド)が目安です。

輔祭のいると動きがより立体的になり、正教会の礼拝の特徴である「対話」がはっきり見えて面白いですよ。



ホームページのご案内

○「なごや聖歌だより」のホームページ

<http://www.orthodox-jp.com/music>

なごや聖歌だよりのホームページの表紙で名古屋教会の聖歌が聞けます。

○ 東方正教会の聖歌 <http://www.orthodox-jp.com/maria>
詳しく学びたい方のため正教会聖歌の特徴、聖歌の神学、歴史、など海外の資料も多数翻訳して掲載しています。

○ 正教会奉神礼研究 *Liturgia*

<http://www.orthodox-jp.com/liturgia> 奉神礼や聖歌の実践資料